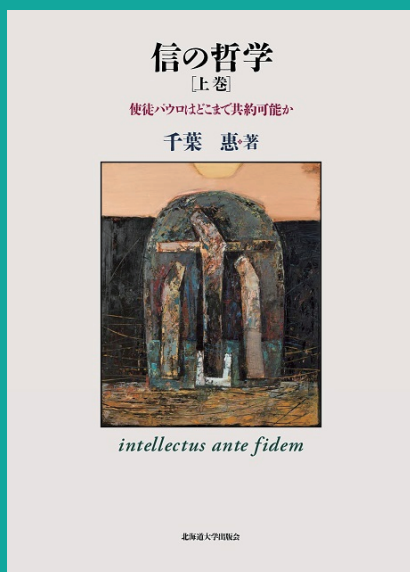


信の哲学

講演とシンポジウム

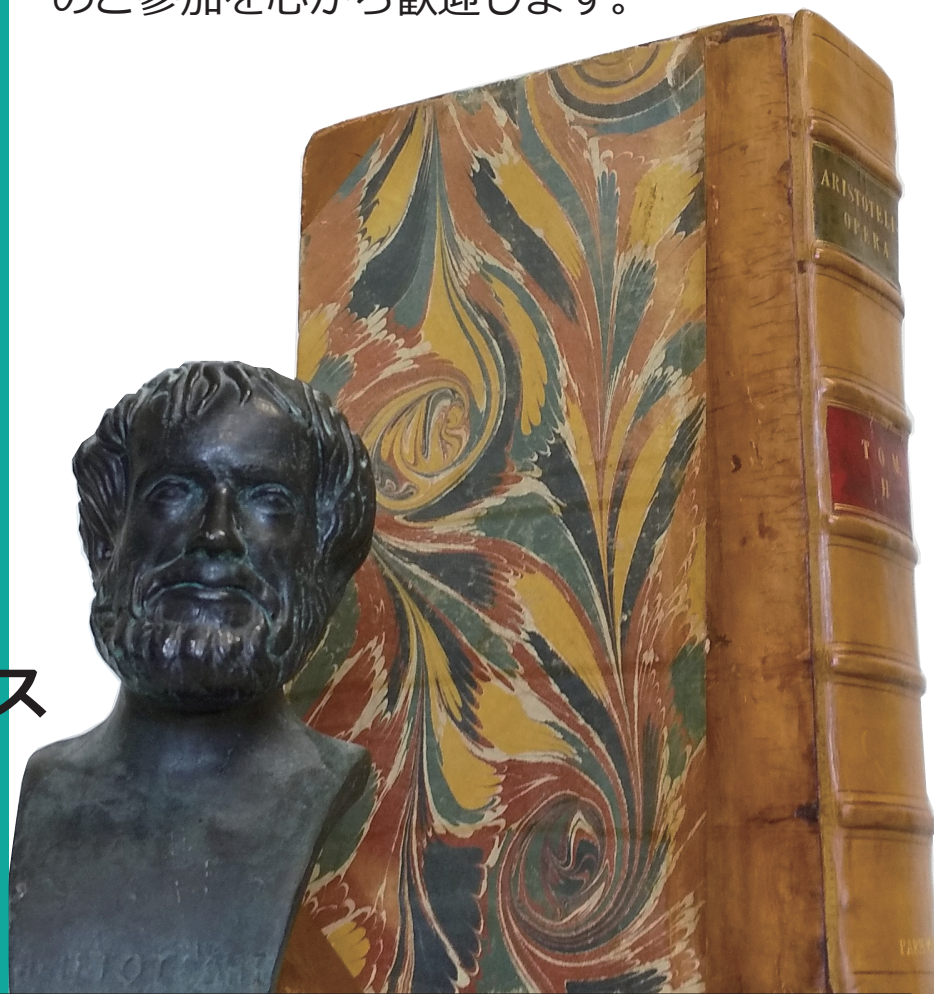


『信の哲学—使徒パウロはどこまで共約可能か—』（北海道大学出版会 2018）においてパウロの信仰義認論や予定論に対しアリストテレスの言語哲学、心身論の知見に基づく哲学的分析がほどこされた。誰にとっても信・信仰が真偽（事実）に関わる認知的な卓越性と善悪（価値）に関わる人格的な卓越性双方を統一する心魂の根源的態勢であると論じられた。本講演とシンポジウムはこの信の哲学をめぐる徹底的に吟味しあう。関心の向きのご参加を心から歓迎します。

日時：2019年7月25日（木）

午後3時～7時半

場所：北海道大学ファカルティハウス
エンレイソウ第一会議室



講演 「信仰と理性が出会うとき」

久下倫生（マラナ・タ教会牧師、工学、医学博士）

略歴：1950年11月14日、大阪市生まれ。京都大学工学部卒業、工学研究科高分子化学専攻修了。専門は基礎医学で生体適合性材料の開発、診断システムの開発。糖尿病の新しい診断システム、B型肝炎ウイルスの標準化は現在も広く使われている。ハーバード大学血液学研究所、オクラホマ大学神経生理学研究所との共同研究。米国分子生物学会、神経生理学会に所属。高分子材料の医学への応用で工学博士（京都大学）、ストレスによる生体反応の研究で医学博士（名古屋大学）。

シンポジウム 信の哲学—アリストテレスとパウロの対話

高橋久一郎（千葉大学名誉教授）

「信と知の間に何があるか—アリストテレスと千葉恵の対話にそくして—」

佐々木啓（北海道大学教授）「信の哲学と解釈学」

久下倫生「『信の哲学』がもたらすエキュメニカルなインパクト」

千葉恵（北海道大学特任教授）「応答」

全体討論

資料の請求ならびにご照会は 千葉恵 (k-chiba@let.hokudai.ac.jp) まで。本シンポジウムは科研基盤研究C（代表 千葉恵）「『信の哲学』英語版作成を介した負の知的遺産を克服するパウロの言語と心身の哲学」によるものです。